一般演題（口演） | 補助循環 研究

[O27]一般演題・口演27
補助循環 研究01

座長:市場 晋吾(日本医科大学付属病院 外科系集中治療科)
2019年3月1日(金) 09:40 ～ 10:30 第9会場 (国立京都国際会館2F Room B-2)

[O27-6]ECMO中の輸血需要に関連した臨床的特徴と凝固管理

青景 聡之[1], 平山 隆浩[2], 塚原 紘平[1], 高 寛[2], 清水 一好[3], 中川 晃志[4], 岩崎 達雄[5], 笠原 真悟[6], 内藤 宏道[1], 中尾 篤典[1]
(1.岡山大学病院 高度救命救急センター, 2.岡山大学病院 臨床工学部, 3.岡山大学病院 手術部, 4.岡山大学病院 循環器内科, 5.岡山大学病院 小児麻酔科, 6.岡山大学病院 心臓血管外科)

【背景・目的】 ECMOには抗凝固療法が必須であり、出血や貧血を代償するため輸血が用いられる。輸血需要に関連した患者の臨床的特徴、凝固管理、予後については十分に解明されていない。本研究では輸血需要が増加しやすい患者の特徴を明らかにし、リスクに応じて異なる抗凝固戦略の必要性について考察する。【方法】2013年1月から2018年8月までの成人 ECMO症例 67例のうち、96時間以上の ECMO使用例、30例を研究対象とした。導入前後に開胸手術、 Central ECMOを要した症例は除外した。入院時の臨床的特徴および、導入から7日目まで（離脱・回路交換を行ったものはその時点まで）の輸血量と凝固パラメータを評価した。1日あたりの平均赤血球輸血量の中央値は240 ml/dayであったため、少量輸血群(＜240ml/day)13例と多量輸血群(≧240ml/day)17例の2群に分類し、臨床的特徴と凝固パラメータ、予後について解析した。【結果・考察】臨床的特徴・予後を表に示す。多量輸血群では VA ECMOの頻度が高かった。年齢・性別・ APACHE/SOFAスコアは両群間で差はなかった。管理面では、多量輸血群で、血小板値が低く、ヘパリン使用量が少ない反面、 APTTは延長していた。 ACTと ECMO期間に差はなかった。 VA ECMOでは、 VVよりも出血が生じやすい可能性があり、輸血量に反映された可能性がある。【結語】輸血量が多い群では VA ECMOの割合が多かった。 VAでは VVと異なる抗凝固戦略の必要性が示唆された。今後はさらに解析をすすめ、 VAと VVの患者背景と管理法の違いを明らかにしていく。

©一般社団法人 日本集中治療医学会